

# はばたき



NO.29

1991.3

神戸市立王子動物園



## 開園40周年と動物園の役割

今年の3月21日は王子動物園が開園40周年の記念日に当たります。この40年間を生き抜いた動物がただ1頭だけいます。それはインドゾウの諏訪子です。諏訪子は開園前の昭和25年9月にはるばるバンコックから来ましたが、王子動物園がまだ開園していなかったため、旧諏訪山動物園に預けられ、王子動物園開園の26年3月に王子動物園に落ち着き、それ以来40年間王子動物園の移り変わりを見つめてきました。

神戸に動物園ができたのは昭和3年で、諏訪山遊園地に併設され、昭和12年に神戸市に移管され市立諏訪山動物園として親しまれてきました。しかし、第2次世界大戦により多くの動物を失い、食料の不足も相まって昭和21年に閉園されました。昭和25年に王子で開かれた「神戸博」の跡地利用として動物園がつくられることになり、昭和26年3月に王子動物園としてスタートいたしました。

開園当初はまだ戦後の食料難の時代で、動物のえさの確保に四苦八苦、毎日毎日草刈りにおわれ、えさ代を確保するためにゾウの地方巡業をするなど苦労が絶えなかったようです。また、少ない予算の中でやりくりしながら動物の充実と獣舎の整備など歴代園長や職員などの先輩たちが苦労を重ねられた結果、今の王子動物園が築きあげられたことを忘れてはなりません。この先輩たちの残した教訓と遺産を守りながら、21世紀に向けての新しい動物園を目指すことが大切です。

従前から動物園はレクリエーションの場として親しまれ、現在でもその役割が大きく占めていることは申すまでもありません。しかし、動物園の役割はまだまだまだたくさんあります。まず、社会教育としての場で、動物の持つ機能や習性、生活環境などの知識を普及し自然保護の思想を啓蒙する必要があります。王子動物園の動物科学資料館もその目的でつくられた施設です。次にあげられるのが野生動物の種の保存事業です。年々この地球上から動物の種が消えつつあります。これを防ぐには動物園の手で守らなければ

なりません。日本動物園水族館協会では4年前からこの事業に着手し、日本の動物園や水族館が分担し協力しながら計画的な繁殖を行い、種を永遠に保存しようとするもので、王子動物園もその一端を担っています。

いま、王子動物園では再編整備計画を行っています。その目玉となる「動物とこどもの国」は今年秋に完成オープンいたします。幼児からお年寄りにいたるまであらゆる年齢層の人々に楽しみながら学ぶ施設へと大きく転換しつつあります。40年間王子動物園の移り変わりを見てきた諏訪子もこれからの動物園の発展をあの優しい目で末永く見守ってくれることと思います。

神戸市立王子動物園園長 谷岡正之

## も く じ

1. 巻頭言	2
2. コアラが王子にやってくる	3
3. 動物育児日記	5
1) レッサーパンダの人工哺育	5
2) ユキヒョウの赤ちゃん	7
4. おもしろ動物写真展パート4より	8
5. 飼育うらばなし	10
1) ダチョウは吞助が大嫌い	10
2) 太陽の動物舎の動物達	11
6. 動物なぜなぜ問答	12
1) 動物の子供はよく遊ぶ	12
2) ヒツジとヤギは違うのですか	12
7. 新人職員紹介	13
8. 動物科学資料館の手引き⑧	14
9. トピックス	15

## 表紙写真

平成3年1月2日より太陽の動物舎で展示開始したエメラルドトリーポア  
写真撮影…谷岡正之

# コアラが王子にやってくる

## 「動物とこどもの国」のアイドル動物

今年（平成3年）は王子動物園が開園して40周年になります。この記念として、ただいま、動物園の西側の約8,000㎡の新しい敷地に「動物とこどもの園」の建設が急ピッチで進んでいます。ここにはコアラ舎を中心に、かわいい動物たち、レッサーパンダ、カワウソ舎やリスと小鳥の森があり、今まで王子になかったポニーや羊、ウサギ、アヒルなどの家畜たちと触れ合うことのできる場、私たちはふれあい牧場と呼んでいます。放し飼いにされている動物たちと一体になって楽しむことができます。

それから、カラクリ時計が時を告げるヨーロッパのお城のような塔と吊橋、滝や小川のある楽しいエリア、D51機関車と車掌車のあるプラットホームなど、子供たちの夢一杯のこどもの国が10月にオープンします。

### 世界の子供たちのアイドル「コアラ」

コアラはオーストラリア大陸にしか住んでいない珍しい動物だ、ということは皆さんもよく知っていますね。柔らかい毛に覆われ、大きな鼻と優しい目をした、まるで縫いぐるみのように愛らしい動物です。

このかわいいコアラは、神戸市とオーストラリアの姉妹都市、ブリスベン市から友好交流の動物大使として神戸の子供たちに贈ってもらえることになりました。

さて、コアラてどんな動物なのでしょう。ここで、少し詳しくお話ししましょう。

オーストラリアに住んでいる動物たちは、カンガルーのように、ほとんどお母さんがお腹に袋をもって、この袋の中で赤ちゃんを育て

ます。コアラも同じで、このような動物を有袋類と呼び、分類としては**有袋目・コアラ科**の動物です。

**妊娠期間**（お母さんの体内にいる期間）はカンガルーと同じ約1カ月で、出産後に袋に入り、母乳を飲みながら育ち、7か月目に袋から出て、お母さんの背中におぶさって一緒に暮らします。袋から赤ちゃんが顔を出すころは離乳食を食べ

ますが、なんと、これはお母さんの排泄物なんです。この離乳食はこれから一人立ちして食べ物を探するのに大切な味を覚えることにつながり、ユーカリを消化する酵素を受け継ぎ、お母さんの食べているユーカリの種類を覚えていくのです。

**孤独なコアラ** 2頭でいるときは母子で暮らしている時で、ふだんは一人ぼっちで木の上で暮らしている動物です。そして、一人前の大人になるのは3～4年かかります。

**コアラの種類と住んでいる地域** オーストラリア大陸の東海岸ぞいの、南はビクトリア州から北のクイーンズランド州にかけてのユ

ーカリの森に住んでいますが、この広い地域に3種の亜種がいます。南の寒い州都、メルボルン市のあるビクトリア州には大型で濃い茶色の厚い毛で、耳も大きい**ビクトリアコアラ**（体重は雄で10～12kg）。

次に日本の気候と似た地域、州都シドニー市のあるニューサウスウェールズ州には濃いグレーの毛の**ニューサウスウェールズコアラ**がいます。

もっと北の亜熱帯気候の州都ブリスベン市のあるクイーンズランド州には薄いグレーの毛





で、毛も薄く、小柄なクイーンズランドコアラ（体重雄で9 kgほど）がいます。神戸にやって来るコアラは姉妹都市ブリスベン市から贈られるクイーンズランドコアラです。

王子動物園のコアラ舎はコアラが健康に暮らせるために、クイーンズランドの気候に合わせるように、冬は暖房（20～23℃）し、夏は冷房（26～28℃）にして温度調整をします。

また、冬でも温かい太陽光線が展示室にあたるように特別な集光装置が準備されています。もちろん、生き物に大切な紫外線が必要で、展示室も明るく、清潔にし、皆さんにも見やすい環境を整えています。ガラス越しに見る展示手法は、外からの騒音やほこりを遮断し、大変神経質なコアラが静かに暮らせる環境を与えることとなります。

さて、コアラの食事はどんな物でしょう。皆さんはユーカリの木の葉しか食べないということをご存じでしょう。ところが、ユーカリの品種は大変多く、600種もあると言われています。このうち、コアラが食べるのは30～40種ぐらいですが、さきほどお話しした3つの地域ごとに、コアラの食べるユーカリの種類が異なります。各々の地域に合ったユーカリの品種が育てられている森があるからです。

動物園では、まずどこのコアラが来るかによって、ユーカリの品種を選んで植えつける必要

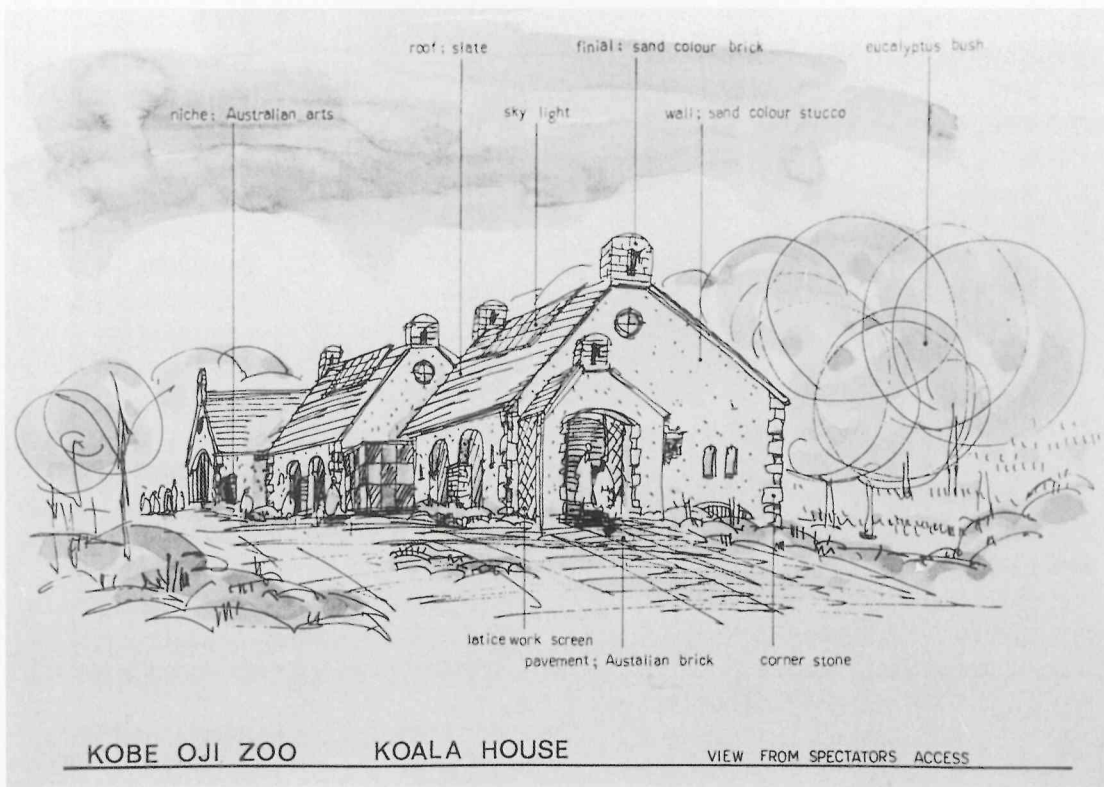
があります。神戸に来るコアラはクイーンズランドコアラですので、もう2年も前から現地で取れた種子を手にいれて、約30,000株を育てています。当然、亜熱帯に育つユーカリですから暖かい地方の鹿児島県の内之浦や霜の降りない瀬戸内海に面した岡山県の玉野市や牛窓町の畑を探して栽培しています。また、全国的な寒波が来ても心配せずに餌が取れるように温室やビニールハウス栽培もしています。

主食となるユーカリは、カマルドレンシス、テレチコルニスやマイクロコリスですが、コアラは気まぐれな動物で、いつも一定量の葉を食べるわけではないので、副食となるロブスター、オバータやプンクタータなど12品種以上のユーカリを植えて万全の備えをしています。

ちなみに、1頭が1日に450～500gの葉を食べるだけですが、1頭あたりに15本の枝を与えなければなりませんので、たくさんの木を植えておかなければ安心できません。

ただいま、動物園では世界のこどもたちのアイドル「コアラ」を皆様にお目にかけるため、全員頑張って準備しております。「動物とこどもの国」にぜひおいでください。「入国ゲート」を通ると目の前がコアラ舎です。「出国ゲート」を通り過ぎるまで楽しい一時を過ごしていただけるものと思っています。

（権藤真禎）



# 動物育児日記

## レッサーパンダの人工哺育

### ●誕生

昨年6月26日にレッサーパンダの双子の赤ちゃんが生まれました。母親の遊遊（ユウユウ）は、今回が2回目の出産で、子どもは2頭とも雄でした。

出生時の体重は約100g、体長は約17cmで、生まれたときから毛が生えていますが、目は閉じていました。

当初、子どもは順調に成育していましたが、

7月18日（22日令）に2頭とも、皮膚炎になっているのを発見しました。その後、1頭は自然になおりましたが、もう1頭は治療を行っても、親が薬をなめ取るのか、一向によくする気配がなく、元気もなくなったので、7月21日（25日令）に親から離し、動物病院に入院させることにしました。

### ●入院生活

入院させたときは、体重がまだ480gしかな

表1 レッサーパンダの系図

繁殖個体	出産日	産仔数	性別	名前	転出日	転出先
洋洋♀	1987年7月3日	1	♀	無名	1988年2月5日	京都市動物園
王子♂						
遊遊♀	1989年6月3日	1	♀	元元	現在飼育中	
	1990年6月3日	2	♂	興興	現在飼育中	
			♂	泰泰	現在飼育中	





く、ミルクしか飲みませんでした。

レッサーパンダは、ヒマラヤ等の寒い所に住む動物であることから、人工哺育を行うにあたり、冷房を用い室温を約23℃に下げても必要がありました。ミルクは、犬用のものを、哺乳ピンは人用のものを使用しました。授乳時間は、人工哺育開始当初で、午前5時、8時、11時、午後2時、5時、8時の1日6回で、1回につき約20ml飲ませていました。皮膚炎は、その後も悪くなる一方で、ついには尾の毛が全て無くなりました。また、9月18日(84日令)には、元気がなくなり、歩くこともできなくなりました。それからは毎日、日光浴と足のマッサージを続けたところ、10月9日(105日令)には、しっかりと歩けるようになりました。なかなか治らなかった皮膚炎も11月10日(136日令)頃から回復しはじめ、毛も少しずつ生えてきました。それからは、ミルクもよく飲み元気になってきました。この頃から、離乳食にリンゴ、カキ、ブドウ、キウイ等も食べ始めました。

#### ●やんちゃ盛り

12月4日(161日令)には、体重が3kgとなり、元気に病院内を跳ね回るようになりました。た

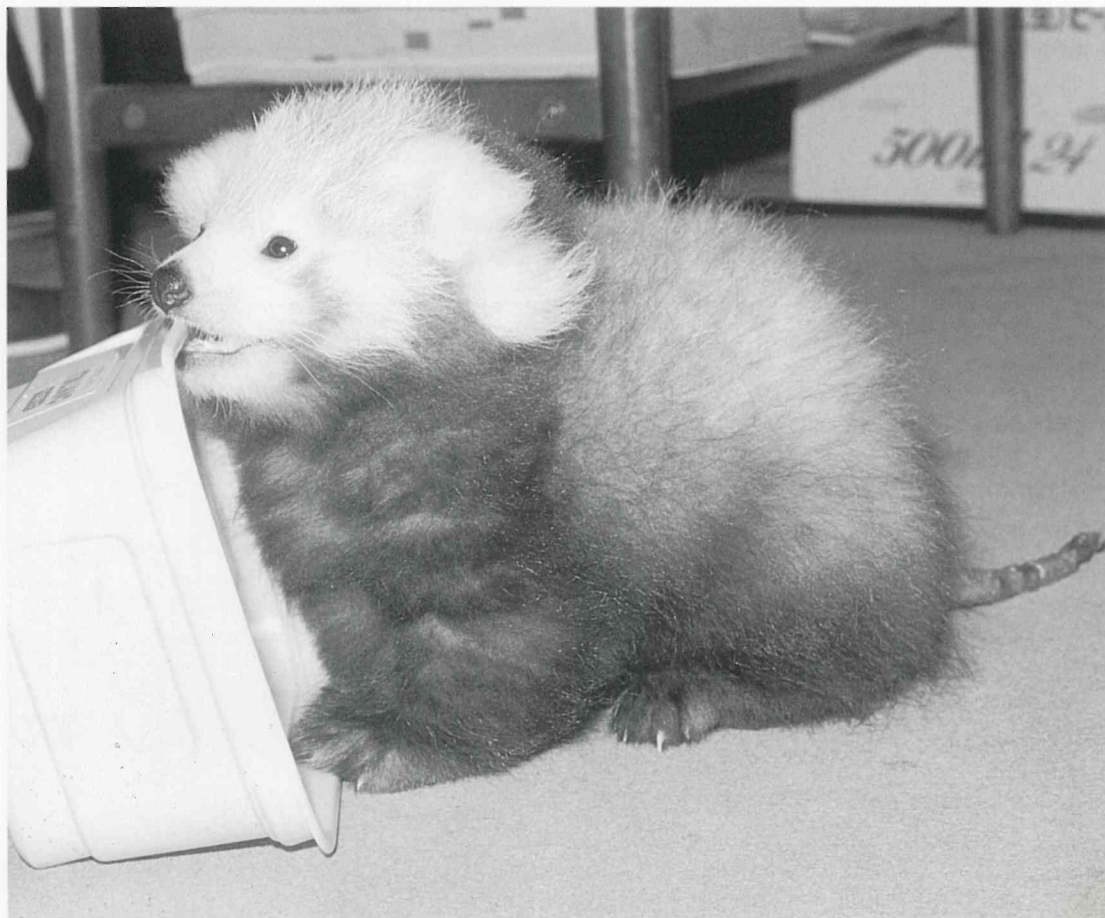
だ、元気すぎて私達を噛んだり、机の上で暴れまわるなど、手をつけられない状態となりました。しかし、そこまでしても持って生まれた可愛さのおかげで誰も怒ろうとはしませんでした。この頃、園長により、おだやかな子に育つようにと願いを込めて泰泰(タイタイ)という名前を付けてもらいました。また、お母さんと一緒にいる子どもは興興(シンシン)と名付けられました。

#### ●お姉さんと一緒

12月17日(174日令)、泰泰をレッサーパンダ舎に戻すことにしました。しかし、他園でも人工哺育で育てた子を母親に戻したところ、母親に攻撃された例があったので、1年前に生まれたお姉さんの元元(ゲンゲン)と一緒にすることにしました。お姉さんのいる飼育舎に泰泰を入れたところ、2頭はすぐに仲良くなりました。

#### ●最後に

泰泰も興興も今では、お母さんと同じ程大きくなりました。泰泰は、あいかわらずやんちゃで、私達やお姉さんと楽しそうに暮らしています。  
(兼光秀泰)



# ユキヒョウの赤ちゃん

## 関西初の ユキヒョウ誕生

ユキヒョウはネコ科の動物でヒマラヤから中央アジアにかけての山岳地帯（高度1800m～4000m）に生息地しています。暑さに弱いため、夏場は獣舎内の室温を下げています。また、夜行性で警戒心が大変強いので、昼間はあまり活動しているところを見ることができません。野生では繁殖期のみ、オス・メス共に行動します。しかし、ふだんは単独行動なので、動物園では大変繁殖のむずかしい動物です。今回、初めて当園にやって来たユキヒョウのオス（ザルト）はスイスのパーゼル動物園から購入した個体です。メスのユキエは以前ブリーディングローンで、札幌市円山動物園で繁殖した個体です。今回、このペアが繁殖に成功したので報告いたします。

1990年2月中旬、やっと繁殖期に入り、5日間で何度か、交尾を確認しました。うまく妊娠してくれますと5月上旬に赤ちゃんが誕生する予定でした。しかし、出産予定日が近づきましてもユキエの様子は別に変わっていないし、毛が大変長いので、妊娠しているのがはっきりわかりませんでした。そこで、4月上旬から寝室に敷きワラを入れてやり様子を見ていました。予定日が過ぎても全然出産の兆候が見られないので、心配しました。5月20日朝、私が獣舎に行きますといつもと様子が違って、ユキエが近づいてきません。よく見ると待望の赤ちゃんが2頭生まれていました。早速獣舎の金網にヨシズを張って、室内を暗くしてやりました。今回、初めての出産のため、母親がお乳を与えるかどうか心配しました。しかし、2日後にはお乳を飲んでいるところが見られたので安心しました。1週間たち、母親も落ち着いてきたのか、私の前に姿を見せるようになりました。このころの赤ちゃんは、眠っているか、お乳を飲んでるかのどちらかでした。また、まだ目が見えないので母親の乳首を探すのが大変なようでした。

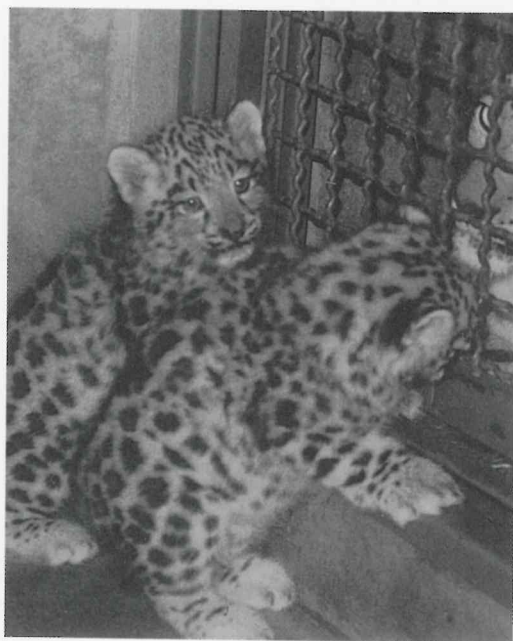
6月4日には、2頭とも目が見えるようになったのか動きも活発になり、母親の乳首にも簡単に吸いつくことができました。

6月12日、母親と子供をおもいきって分けてみました。そして、寝室のワラを替え、性別の確認と体重を測定することができました。子供はオスとメスでした。オスはカズユキと名付け、メスはミユキと名付けました。体重はオスが1.9kg、メスが1.8kgでした。

7月になると2頭とも順調に育ち、馬肉、トリガラ、キモ、などを食べるようになり、便も親と同じようになりました。7月20日には親子4頭を放飼場に出すことができました。父親も喜んでいるようです。子供達は最初はふるえてじっとしていましたが、次第に慣れて活発に動き、元気に遊ぶようになりました。そして、12月にはいよいよ親と子供を分けることにしました。子供達が母親といると次の子供をつくらないためです。親子仲良く暮らさせてやりたいのですが、希少中の希少動物ですので、少しでも仲間を増やしてやりたいからです。

今年の5月にはまた子供が生まれそうです。

（関 和也）



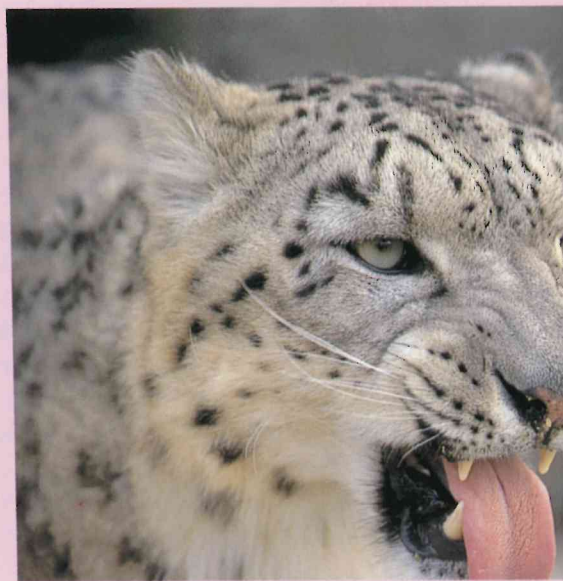


# おもしろ動物写真館

パート4



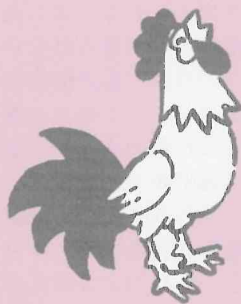
ハイボーズ  
〔ヨーロッパカワウソ〕 粕谷佳子様



あかんべー  
〔ユキヒョウ〕



くしゃみ出そう〔ブラッサグエノン〕 藤原好美様







えっ！ なあに？  
〔オオヤマネコ〕  
原 昭子様



ダイエットしすぎたわ！  
〔マサイキリン〕  
山田絵理様



考えるサル  
〔ポリビアリスサル〕  
村井栄太様

松田正信様



お母さん大好き  
〔ワオキツネサル〕 津田司穂様



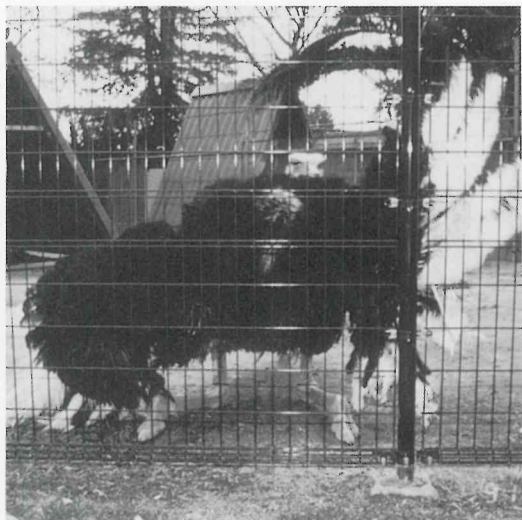
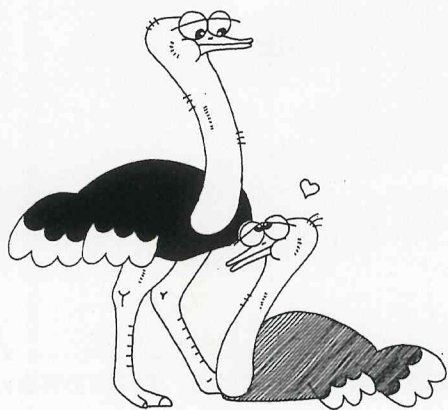
おいしいなあ～  
〔カバ〕  
岡之上 唯様

写真は職員が写したのですが、題名はお客様からいただきました。写真下の氏名は題名を付けて下さった入園者の方のお名前です。

# 飼育うらばなし

## ダチョウは 呑み助が大嫌い

ダチョウは、現生の鳥類で最大の種類であることは誰でも知っています。また鳥なのに飛べないことも当然のように有名です。鳥類の祖先は竜盤類型の恐竜だと考えられており、地質年代で言えば三畳紀（約2億3千万年前）に出現し、栄え、ジュラ紀（約1億8千万年前）には恐竜から鳥類への進化の鍵を握る始祖鳥が出現したと考えられています。そして、その後これまで生物が存在しなかった“空”という空間に適応放散していきました。しかし、そのうち、再び地上生活に戻った鳥類がいました。それが、ダチョウをはじめとする走鳥類の仲間です。彼らは、飛ばなくなった分、エネルギーがあり余り、どんどん体が大きくなり鳥類の中でもひときわ際立った立派な体格を持つようになったのですが、その分、大きな危険も背負うことになりました。捕食者に巣が狙われるのです。しかし、負けてはいません。彼らは繁殖する時は1羽の雄と数羽の雌から成る集団を作るのですが、その中の一番優位な雌が、他の雌が産んだ卵までも育てるのです。鳥類では、他の個体が産んだ卵を自らすすんで世話をする種類は少ないのです。鳥類に限らず、自分の遺伝子を残すため



に、種内でさまざまな闘争を起こすことが動物の世界ではよく見られます。しかし、ダチョウの場合は、まるで個体同士が一致団結して自分達の種を守ろうとしているように見えます。このように敵の少ない空から敵の多い地上へと生活場所を変えたために、彼らは自分達の繁殖様式を一風変わった形態へと進化させたのだと考えられます。

ところで話は全く変わりますが、王子動物園では、現在雄、雌各1羽のダチョウを飼育していますが、そのうちの1羽が非常に気が荒く、給餌のために近付いたり、放飼場内のそうじをしようと近付いたりすると、すかさず寄ってきて威嚇をします。特に、私とK飼育員の場合は、ただ飼育員通路を通って彼の前を横切るだけで、血相を変えて近寄ってきて、大きな羽根を広げ、大声で威嚇をします。どうしてなのかと思い悩み、私とK飼育員の共通点を考えてみましたが、なかなか思い浮かびません。体格も違う、性格も違う、色々考えているうちに1つだけありました。私もK飼育員も大の酒好きだ、ということです。酒の臭いが残ったまま作業をしたことも幾度かは、ダチョウは呑み助が嫌いなのでは（ちなみに、私が酒好きであることは、肝臓で作られる酵素の量が普通の人より多いことで証明されています）

（浜 夏樹）



# 太陽の動物舎の動物達



『太陽の動物舎』と聞いてどんな獣舎を想像されますか？

ここでは、は虫類と夜行性動物が展示飼育されています。

は虫類は気温によって体温が変化するので、常に適温を保持してやらねばなりません。その熱源として太陽熱を利用しているので『太陽の動物舎』というのです。冬は水を温水に変えて、は虫類の部屋を暖房し、夏は温水を熱交換して冷房し、夜行性動物の部屋や観覧通路を適温に保っています。

それでは、太陽の動物舎をご案内します。

入口を入ると、まず、は虫類のエリアがあります。一つ目の部屋はワニで、マレーガビアルといいます。口がとても細長いのが特徴で、この口で主に魚を食べています。隣はメガネカイマン。これは成長しても 2.5m ぐらいの小型のワニです。

次は、グリーンイグアナというトカゲの仲間です。草食性なのでクローバ、リンゴ、キュウリ、ふかしサツマイモなどを与えています。

その隣はリクガメ。これもまた草食性で、イグアナと同じ餌を食べています。

次はヘビのエリアで、まずはビルマニシキヘビがいます。現在は 3.5m ~ 4m ぐらいですが、大きくなると 6m ぐらいにもなります。

次はエメラルドトリーボアという、とても美しい緑色をしたヘビで、樹上性なので木の枝に団子のようにまるまって止まっています。

これらの、は虫類舎の背景は温室になっていて、ガジュマロ等ゴムの木や、その他熱帯植物が植えられています。その木の枝に壺のような巣を作るキハタオドリや美しいホウオウジャク、セイキチョウなどの鳥が飛んでいます。

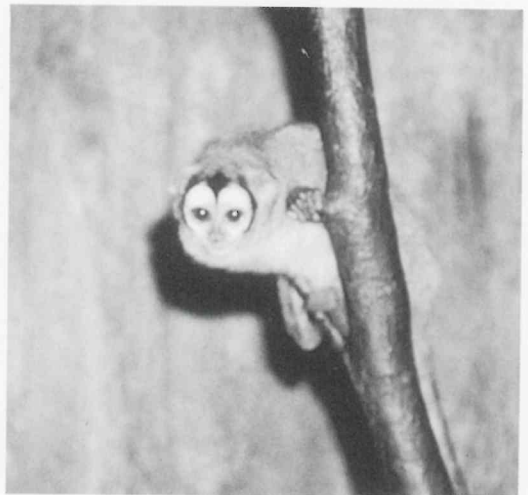
次に、急に通路が暗くなり、夜行性動物の部屋が続きます。最初は、コモンマーモセットという耳のところから白いフワフワの毛の生えた、とても小さい猿がいます。次はハリテンレックという食虫類の仲間で、体中に短い針のような毛が生えています。隣はインドオオコオモリで、虫などは食わずに果実類を好んで食べます。

次はヨザル。目が大きくて、どことなくフクロウに似た顔をした猿です。

次も猿の仲間ですが、ちょっと見ると、リスによく似たレッサーガラルゴがいます。

そして最後がフクロウの部屋。ここで夜行性動物はおしまいで、周りがパッと明るくなり、元の温室のところへ出てきます。通路の右側には、イシガメ、クサガメ、ペットショップでミドリガメという名で売られているアカミミガメなどの水生のカメとウシガエルがいます。

そしてその先にはナマケモノが 3 頭います。ケージに入っている 2 頭が親で、その隣は平成 2 年 3 月生まれの子供です。これで太陽の動物舎を一回りしてきたわけですが、これを参考にもう一度本物を見に来ていただければうれしいです。  
(藤井頼久)



# — 動物 <sup>なぜ</sup> <sub>なぜ</sub> 問答 —

## ●動物の子供はよく遊ぶ

動物の子どもは実によく遊びます。追っかけあったり、レスリングをしたりする子どもの遊びは見ている方が疲れるほどです。

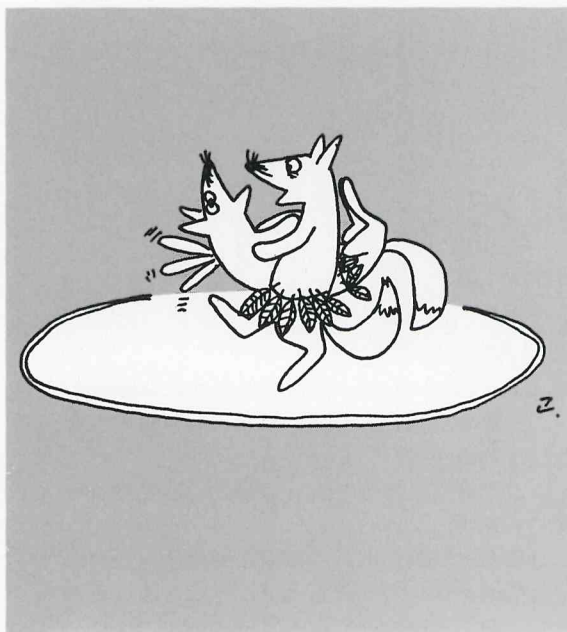
では、なぜ子どもは遊ぶのでしょうか？

遊びを観察していると、おとなのある行動に似ていることに気がつきます。ライオンの子の追いかっこや咬み合いは、おとな同士の闘いの姿にそっくりです。ニホンザルの子が相手に馬乗りになる遊びは、おとなでは大切なあいさつの役目をもっています。飛び上がって遊ぶキツネの子の動作は、おとながネズミを狩る時にするものです。また、遊びでおとなにいたずらをしすぎた時には、ひどく怒られることもあります。

動物の子どもたちは、遊びながら群れのおきてや生きるための知恵をくり返し学び、身につけていくようです。おとなになるための練習なのでしょう。

でも、なぜ子どもがあれほどよく遊ぶのか、本当のところまだよく分かっていないのです。

(村田浩一)



## ●ヒツジとヤギは違うのですか？

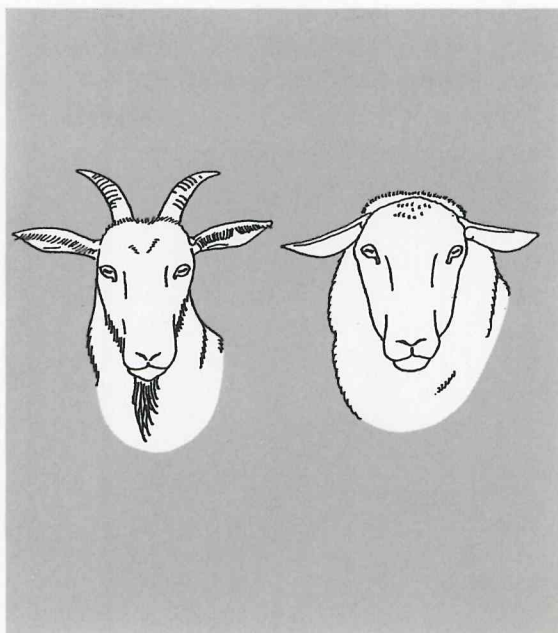
年末には、ヒツジについての問い合わせがたくさんありました。多かったのは「ヤギとどこが違うのですか？」ということでした。

ヒツジとヤギは大昔、別々の野生動物を家畜化し、改良した別々の動物で、「あいの子」もできません。それぞれ毛用のもの、肉用のもの、乳用のものがあります。毛織物でヒツジはウール、ある種のヤギはカシミヤと呼ばれています。

一目で違うところはアゴヒゲです。ヤギには「ヤギヒゲ」といわれるヒゲがあり、ヒツジにはありません。また、ヤギのしっぽのうらがわには毛がありませんが、ヒツジのは全体が毛でおおわれています。もう一つ、ヒツジの体には脂肪を出すところがあるので、「ねばねば」した毛でおおわれています。

今年秋、「動物とこどもの国・ふれあい広場」がオープンする予定です。皆さん、「目」で見て、「手」でさわって確かめてください。あえる日を楽しみにしています。

(梯 英喜)





# 新人です。よろしく

平成2年8月1日付で採用された飼育職員を紹介します。

## 王子の飼育員になって

川上 博司



はじめまして…と言うより一部の飼育係の方々には「あれ!?なんで?こいつ王子に居るんや!?!」……と関西弁で言われるかも知れませんが、念願の王子動物園へ搬入されてまいりました。趣味は上記の方々は良くご存じの『遊び&飼育』。飼育係になろうと思った動機は、当王子動物園のカバとの出会いだったので飼育ジブシーのように枚方パーク・姫路セントラルパークを経て現在に至る。

1991年1月時点では30歳（世間には強引に26歳で通させていますが…）独身・飼育係歴12年。

飼育係としての夢は、定年退職の日まで飼育係ができて…その時もカバの世話をしていること、そしてカバの顔を“ポンポン”とたたいて去って行くこと……ウーン・ドラマチック…と今からその状況を想像して感動している今日この頃。



## 魔法の扉

島田 幸宜

街の真ん中にある、魔法の扉。それをくぐった子供達は、その目で見たことのない動物達と出会って興奮し、大人達も子供と同じ様に無邪気になって、子供と一緒に笑い、驚いている。そして、子供も大人も、いつかまた、夢や希望に胸ふくらませて、魔法の扉をくぐろうとする。動物園と言われて、一番にそんな情景が思い浮かぶ私は、動物達の本当の気持ちが分かり、心が通い合い、動物達に少しでもベストな世話をしやりたくて、その魔法の扉をくぐったのでした。その中の住人となった今では、たくさんの子供たちや大人の笑い、驚く顔を見るのも、楽しみのひとつです。今年、その魔法の扉をくぐった中に、動物たちをさわれる新しい場所が生まれますが、子供や大人の、もっとたくさんの笑い、驚く顔が見られるのを、心待ちにしています。

## 動物を学びたい

大山裕二郎



私は、1990年8月に神戸市立王子動物園に入りました。思えば犬や猫以外の動物に初めて接したのが王子動物園でした。大きな毛むくじゃらのものや美しい羽を持つものを見た感動は今も忘れません。それに数多くの疑問も持ちました。どうして同じ顔なのに仲間同士で間違えないのだろう。どうしてあんな口の形をしているのだろう…etc. 今、考えるとたわいもないことなのですが、子供の頃は真剣に悩んでいました。そうしたことから動物に魅せられていき、動物だけではなく、生き物すべてのことが知りたくなっていきました。そうして植物や動物、自然のことなどを見たり聞いたりして知っていくと、どんどん面白くなっていきましたが、一番最初に興味を引かれた動物のことを、実際にこの手に触れながら学びたいと思いました。まだまだ勉強不足な私ですが、早く諸先輩のようになりたいと思います。



## 社会人としての一步

芦田 雅尚

1990年の夏、今までずっと学生をやっていた僕が社会人としての一步をふみ出すことになりました。動物飼育の経験がほとんどない僕にとって、不安と夏の暑さはとてもつらいものがありました。だけど、少しずつ仕事の内容や、次に何をしなければならぬかということが分かってくると、気も楽になり、面白さも出てきました。しかし、動物も賢いもので、長い間働いている方には何もしない鳥たちも、僕が獣舎に入ると体全身をつついたり、手を咬もうとしたりします。まだ動物たちは僕の顔を覚えてくれないみたいです。今後の目標として、早く動物達に僕の顔を覚えてもらうことはもちろん、周りの人たちからも「あの仕事はあいつにまかせておけば大丈夫だ」と言われるように勉強と経験を積んでいきたいです。

# 動物科学資料館の手引 ⑧

～楽しく見るために～



## ◆動物の心とからだ (2)動物の感覚

動物たちは生きていくために、まわりの世界のように正しく知らなければなりません。敵が近くにいないか、食べられるものはどれか、また同じ仲間なのかどうかなどの状況を正しく判断するために、動物はそれぞれの生活にあった感覚機能を発達させてきました。ヒトのようにたぐみな言葉をもたない動物たちは、仲間と交信したり、エサをとったりするのにヒトよりすぐれた感覚(触覚、視覚、嗅覚など)をもっています。今回はこの動物たちのすばらしい感覚器官を紹介しましょう。

### 1. モグラの触覚(ふれる)

地中の暗やみで行動するモグラにとって目は退化してほとんど役に立ちません。このコーナーでは、地中のトンネルの中でのモグラの生活ぶりを地中断面の模型と二匹のモグラの剥製を使って説明しています。モグラは鼻先や口のまわりのひげと鋭く突き出た鼻の嗅覚によってエサである昆虫を見つけます。また、手のふち、ひじ、ほほ、尾などにも特別な毛(触毛)が生えていて、これでトンネルの中の細かな地形を知ることができるのです。

### 2. 動物の視覚

動物の目は、構造や位置によっていろいろな見え方があります。目の役割として形をとらえること、色別することがあり、また、左右2つの目で同時に1つの対象を見る双眼視の方法で、対象までの距離を測定できる動物もいます。ここでは動物によって異なる視野の範囲と双眼視できる範囲をパネルで説明しています。一般に

獲物をしとめることが必要な動物は目が顔の正面に位置し、双眼視できる範囲が広がっています。また追われる立場の動物は、目が顔の側面につき、敵を早く発見できるように広い範囲が一度に見渡せるようになっています。

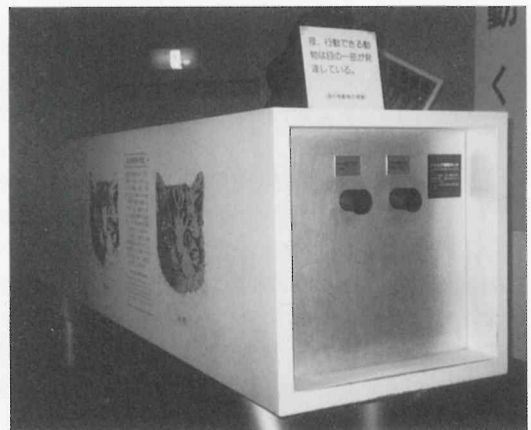
### 3. アニマル・アイズ・タワー

長い煙突にのぞき窓(モニター)がついているこの潜望鏡のような装置で、カメ、ライオン、キリンの3種類の動物の目の高さから見える館内の風景が体験できます。それぞれの動物の目の高さにカメラが設置されており、そのカメラのとらえた映像がモニターにうつし出されます。見る高さによってずいぶん見えるものが違うことがわかるでしょう。

### 4. 夜行性動物の視覚(暗やみを見る)

このコーナーでは、夜行性動物の目で見える暗やみをナイトビューア(暗視鏡)を使って体験できるようになっています。ヒトの目で見るのと比べてみて下さい。一部の夜行性動物はまるく大きな目をしていることはお気づきでしょう。この大きな目のレンズは弱い光を集め、明るくして網膜に送る役割をしています。また網膜にある光を感じる細胞が私たちヒトに比べて多く、また網膜の後には一種の蛍光物質をもつ組織があり、これで弱い光を強め、再吸収して暗やみでもものを見やすくしています。しかし、昼間はこの目ではまぶし過ぎるので、ネコは瞳孔(ひとみ)をたてにしぼり、目に入る光の量を調整しています。

(山本範子)





## ◆夏休みの催し

夏休みの恒例行事であるサマースクールをはじめ、動物絵画教室、動物アニメ映画大会などの催しを行い、たくさんの子供たちが参加しました。

## ◆動物科学資料館・特別展

動物科学資料館の特別展示室で次のような特別展を開催しました。

- 動物おもしろ細工大集合 (7/26～9/4)  
～動物クラフト展～
- 第2回アマチュア動物写真コンクール作品展  
(9/13～10/16)
- 熱帯の動・植物展 (10/26～1/29)
- おもしろ動物写真館 Part 4



## ◆「ひつじ年」賀状版画コンクール開催

平成3年のエトである、ひつじの版画を募集しました。今回は1,468点の応募の中から、特別賞7点、金賞30点、銀賞100点を選出し、1月15日に表彰式を行いました。

また、応募作品全点を、動物科学資料館に展示しました。(特別賞入賞作品/裏表紙)

## ◆中国・天津動物園との交流

中国・天津動物園から、研修生2名が来園し、当園の飼育技術を約2カ月間勉強しました。昭和51年から行ってきた動物の交流は、今年度は、キリン・シロサイを各1対贈りました。

## ◆新しい仲間

マサイキリン 9/14 ラマ 8/24 ワオキツネザル 11/28 チリーフラミンゴ  
モモイロペリカン 10/6 ガビアルモドキ 1/10 メガネカイマン 1/10  
エメラルドトリヘボア 1/2 コモンマーモセット 1/25

## ◆動物科学資料館 入館者200万人突破！

平成2年10月23日に200万人目の入館者を迎え、200万人目とその前後の人に記念品を贈呈いたしました。

## ◆「動物とこどもの国」今秋オープン

コアラがやって来ます。かわいいレッサーパングやカワウソも。リスや小鳥の飛び交うリスと小鳥の森、動物とのふれあいゾーン、塔と吊橋、滝やせせらぎなど楽しさいっぱいの施設を建設中。ご期待ください。



# ひっじ年賀状版画コンクール特別賞入賞作品



上段(左より)

- 神戸市長賞  
①神戸市北区……………奥田 宴子さん
- 神戸市立王子動物園長賞  
②鈴蘭台中・2年…………山本 尚美さん
- 神戸新聞社賞  
③山手小・1年……………川村 祐介さん
- サンテレビジョン賞  
④有野中・2年……………堀内 綾さん

下段(左より)

- 神戸市教育委員会賞  
⑤鶴越小・3年……………正垣早知子さん
- 神戸市動物愛護協会長賞  
⑥りんでん学園……………藤井 友美さん
- 神戸王子動物園協会賞  
⑦山田小・3年……………西田英理香さん

◆編集後記◆

本誌で紹介しました新人の皆さんは、王子動物園の飼育員としては10年ぶりの採用で、今、先輩たちの指導のもとに張り切っています。  
来園者の皆様に喜ばれ、親しまれる飼育係のお兄さん(?)になるよう、初心を忘れずに頑張ってくれることを期待しています。



はばたき 第29号  
平成3年3月20日発行  
編集：神戸市立王子動物園  
TEL. (078)861-5624  
発行：神戸王子動物園協会  
TEL. (078)801-5711  
神戸市灘区王子町3丁目1  
印刷：梶原出版印刷合資会社